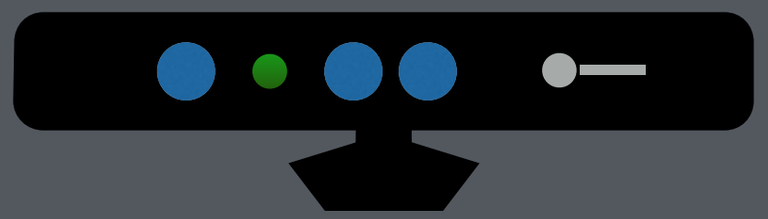
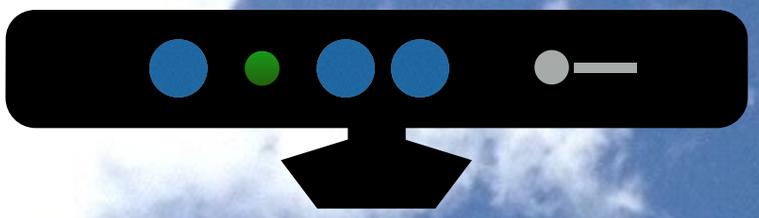
OAKを軸に
生活の幅を広げる

好きな物を選択できる環境づくりを進めながら



長野県稲荷山養護学校　青木高光

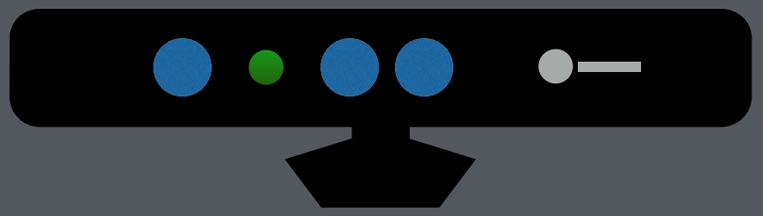


目的

- 本校の肢体不自由児童生徒の
  表出手段や余暇利用の
  選択肢を広げるため

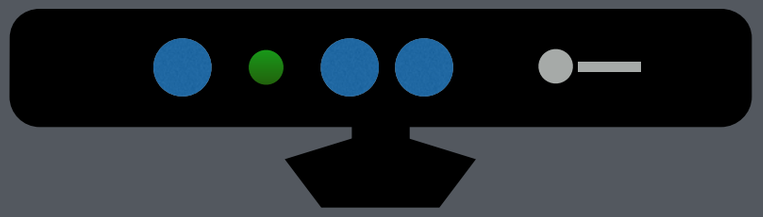
- OAKによる機器操作や
  環境制御についての
  実践を通して

- 個々の子にあった活用方法の
  検討を行う



対象生

- 長田星哉さん
- 中学部３年生
- 脳性まひ



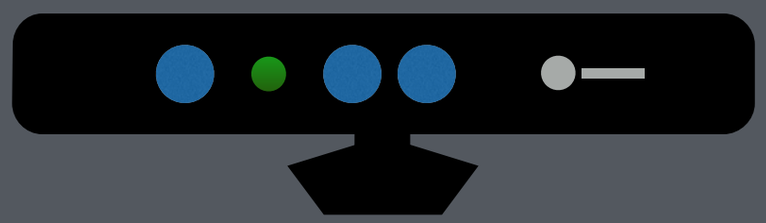
実施計画

- ①身体の動きの評価
- ②活動場面の評価
- ③入力機器の評価
- ④コミュニケーション手段の決定

取り組みの実際

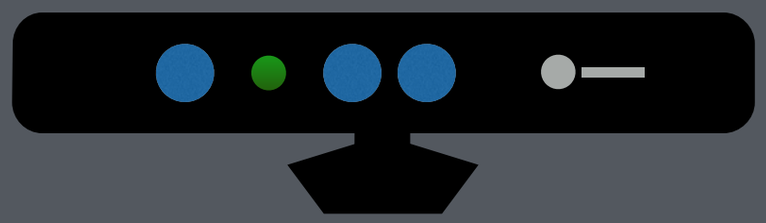
身体の動きの評価

- 興味を持って取り組めそうな対象の選定
- 「友達や先生の写真スライド
- 「音楽の再生」
- 呼気スイッチ→S/N比が悪い
- モーションヒストリーの活用



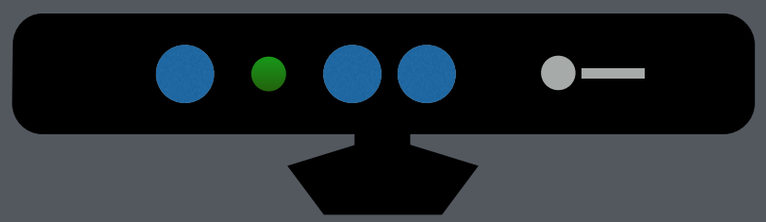
活動場面の評価

- テレビ取材を良いチャンスに
- スライド係
- 「口の動き」
- 「パッ」という音
- 口の周辺30ピクセル程度



入力機器の評価

- OAK以外のスイッチ
- 複数の組み合わせを検討
- フェイススイッチと
  エアスイッチ
  →学習場面ごとの使い分けも
  試す



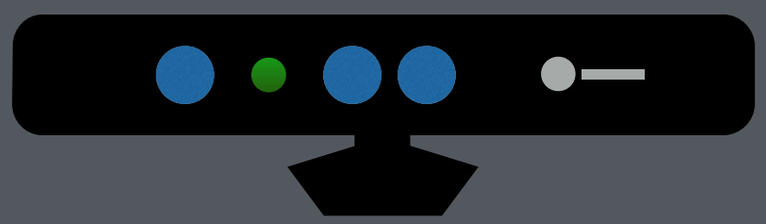
コミュニケーション手段の決定

- 家庭でも並行して活用
- 自室への設置
- 学校と同じデータを共有
- できるだけ同じ「やりとり」を

結果・考察

- 中心になっている活動
  →スライド操作
  →写真選定でのやりとり

- 操作方法の「練習」
  ←「練習」にとどまっている部分があることが問題。活動自体を楽しみながら進めたい

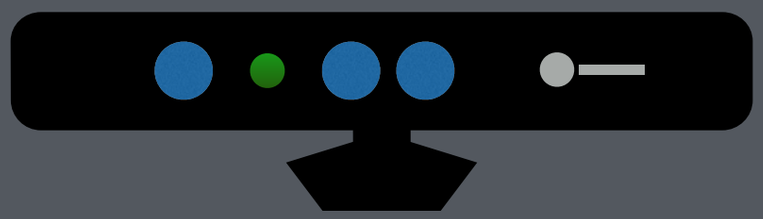


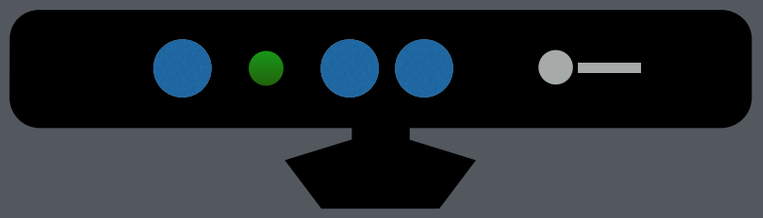
OAKのスイッチ選択

	星哉さんにとっての利点	星哉さんにとっての問題点
フェイススイッチ	スイッチが追従してくれることで、不随意な動きによる誤動作が比較的少ない。	· 顔認識がはずれやすい · 口の認識が上手く行かず、彼の得意な動きが生かせない · 顔全体の動きを捉える場合は、首への負担が大きい
カラースイッチ	口のわずかな動きに反応してくれるので、彼の得意な動きが行かせる	· スイッチが身体部位に追従しないので、不随意運動による誤動作が防ぎにくい · 時間経過によるシーティングの変化に対応できない

家庭での活用

- 自室にOAKを設置
- 保護者との共通理解
  課題の共有を進める





今後の課題

- 他の入力手段
  今後も検討を継続する

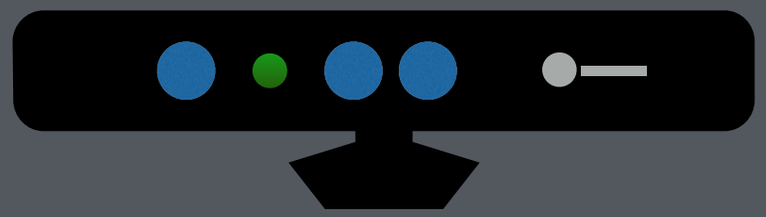
- モーションヒストリーをリラックスした環境の中で活用したい

- 他の生徒への活用を進める
  （すでに他校との協力も）

与えてもらった「気づき」

- 物理スイッチ
  ←因果関係に気づきやすい

- 本当にそうなのか？

- 物理的なスイッチを押している
  ＝重度重複障がいの子たちの活動が保証されている

  と考える、という落とし穴にはまっていたのでは？